

NRIがSaaSで提供する基盤ソリューション

「クラウド」や「SaaS」といった言葉が、IT専門誌だけでなく新聞などでもさかんに取り上げられ、注目を浴びるようになってきている。サービス事業者からもさまざまなサービスが提供されている。本稿では、野村総合研究所（以下、NRI）が提供する、共通基盤としての性格を持つ2つのSaaS型サービスについて紹介する。

業務系SaaSと基盤系SaaSを提供

クラウドコンピューティングの利用形態の1つであるSaaS（Software as a Service。ソフトウェア機能をインターネット上のサービスとして利用する仕組み）が言葉としても定着してきた。その一方で、「SaaSとASP（アプリケーションサービスプロバイダ）サービスは何が違うのか」という疑問もよく聞かれる。実はユーザーから見るとSaaSとASPサービスには大きな違いがない。①自社の資産にならない（貸借対照表に資産として計上されない）②使った分だけ料金を支払う③必要に応じて自社向けのカスタマイズができる—という点で共通しているからである。

NRIはすでに多くの業務アプリケーションをASPサービスとして提供している。証券向けバックオフィス共同システム「STAR-IV」、投資信託販売バックオフィス共同システム「BESTWAY」、流通向け企業間連携システム「BizMart」、製薬業界向けドキュメント共有システム「Perma Document」などである。

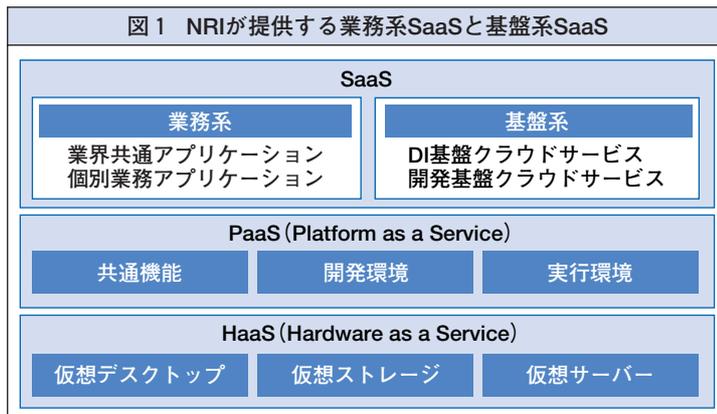
NRIは、これらのASPサービス

のノウハウを生かして業務系のSaaSアプリケーションを逐次展開していく予定である。また、このような業務系SaaSとは別に、業務アプリケーションを実行する上で共通基盤となる基盤ソリューションを基盤系SaaSとして提供する計画である。当面は「DI基盤クラウドサービス」と「開発基盤クラウドサービス」の2つを提供する。（図1参照）

「DI基盤クラウドサービス」

本サービスは、消費者向けもしくは従業員を対象としたシステムを利用するエンドユーザーが、より便利に安心してシステムを利用できるようにするための基盤を提供するものである。ちなみにDI（Digital Identity）とは「本人識別子」という意味である。

図1 NRIが提供する業務系SaaSと基盤系SaaS



野村総合研究所
基盤ソリューション事業本部
DIソリューション事業部長

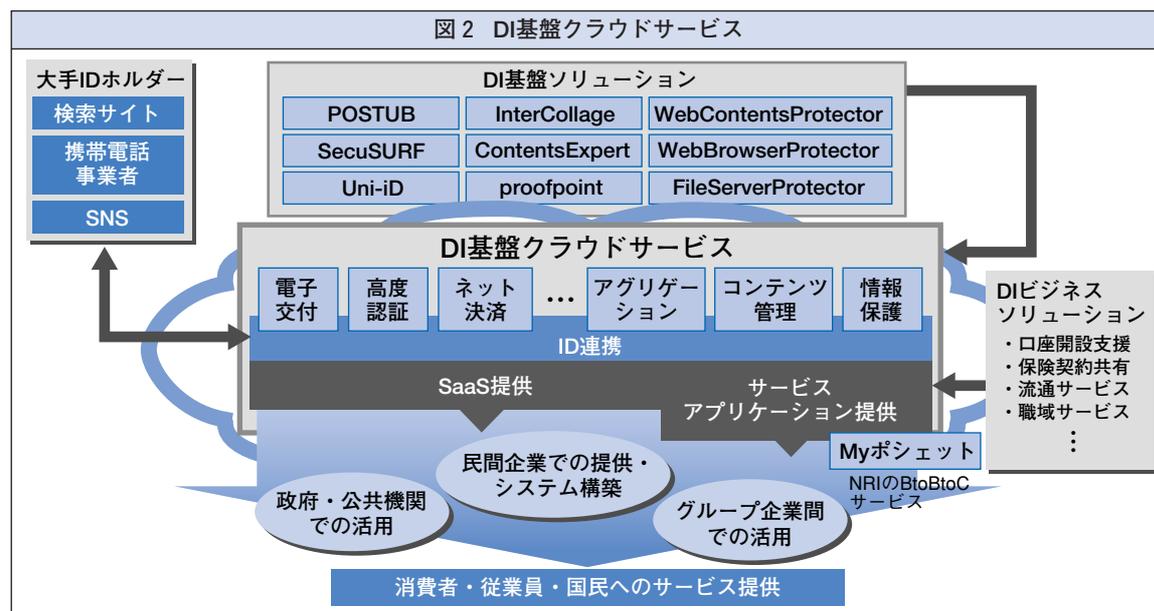
八木晃二（やぎこうじ）

野村総合研究所
基盤ソリューション事業本部
DIソリューション事業部
企画・営業グループGM

青山 慎（あおやましん）

野村総合研究所
基盤ソリューション事業本部
クラウドソリューション事業部
開発基盤ソリューショングループGM

齊藤英紀（さいとうひでき）



NRIが2009年に実施した1万人アンケートの結果によると、1人のユーザーがIDとパスワードを入力してアクセスするサイトは平均で19.2個であった。他方、ユーザーが覚えていられるID、パスワードの組は平均で3.1個という結果も出ている。どのサイトでも同じIDとパスワードを共通して使うとセキュリティ上の懸念があるが、もしこれが安心して使用できたら便利であることは間違いない。

「DI基盤クラウドサービス」は、このような問題を解決する具体的なソリューションをSaaSとして提供する。利用企業は使った分だけ料金を支払えばよいので、自社でシステムを構築することに比べて安価である。また、稼働状態のシステムとして提供されるためすぐに利用することができる。既存システムとの接続性も考慮されており、自社システムと

のシームレスな連携も可能である。

技術面では、OpenIDという標準化された技術を用いて相互運用性を確保している。NRIは、OpenIDの標準化推進団体OpenID Foundationの中核メンバーでもある。

ビジネス面では、複数の企業間でのID連携を可能にしていることがあげられる。これは、本サービスを利用するさまざまな業種の企業を連携させ、1つのIDとパスワードでどのサイトも利用でき、ユーザーの承認を得て必要な情報を企業間でやり取りすることを可能にするものである。これにより、ユーザーは煩雑な入力の手間を省略でき、セキュリティの高度化も実現される。

「DI基盤クラウドサービス」は図2のような各種サービスを提供する予定であり、現時点では下記の3つの機能を提供している。

(1) 高度認証

フィッシングやなりすましを防止するための、ワンタイムパスワード（ランダムに生成された短時間だけ有効なパスワード）認証、リスクベース認証（アクセス方法が通常と異なるなど不正が疑われる場合に追加認証を求める手法）の機能を提供するサービスである。ワンタイムパスワードは特殊な機器ではなく携帯電話を通じて発行され、同じ高度認証サービスを活用するサイト間で共通に使用することが可能である。

(2) 電子交付

企業から個人に宛てた信書のように、確実に本人に届ける文書を電子的に送付するサービスである。これまでも、それぞれのサイトでは文書を見ることはできたが、本サービスにおいては複数の企業が送付する文書を一括して参照することが可能である。自分の鍵が付いた郵便ポストがネット上に置かれていると思えば分かりやすい。

(3) アカウントアグリゲーション

複数の金融機関の口座情報をまとめて表示するサービスである。「みんなの口座管理」と名付けられたこのサービスは、2009年10月からセブン銀行のホームページからリンクを通じて利用できるようになっている。

「開発基盤クラウドサービス」

システム開発の現場でクラウドコンピューティングを利用し、その効果を得るためには、

ハードウェアやソフトウェアを柔軟かつ迅速に調達するのに合わせて、それらを使う現場のSE（システムエンジニア）も柔軟かつ迅速に作業できなければならない。物の提供に関するクラウドコンピューティングのスピードや柔軟性を十分に生かすためには、効率化された方法論・プロセス・環境・ツールなどを備えたシステム開発の業務システムが必要である。

「開発基盤クラウドサービス」は、NRIが長年にわたり培ってきたシステム開発を効率的に進めるためのノウハウを体系的なソリューションとし、これをSaaSとして必要な時に迅速に利用できるようにしたサービスである。本サービスは以下の3つのソリューションで構成されている（図3参照）。

(1) 統合マネジメントソリューション

進捗、課題、リスク、レビューなど、プロジェクトに関する情報を一元管理化および可視化し、リアルタイムにプロジェクトの状況を把握できるようにする。それらの情報を有効活用するために、ナレッジとして蓄積することも可能である。

各種成果物を管理するためのドキュメント管理基盤やライブラリ管理基盤も提供する。これにより、管理コストの無駄を省くとともにマネジメントの質の向上も可能になる。第一段として、プロジェクトマネジメントの品質向上と効率化を両立する開発管理統合プラットフォームを2010年度からサービス提供す

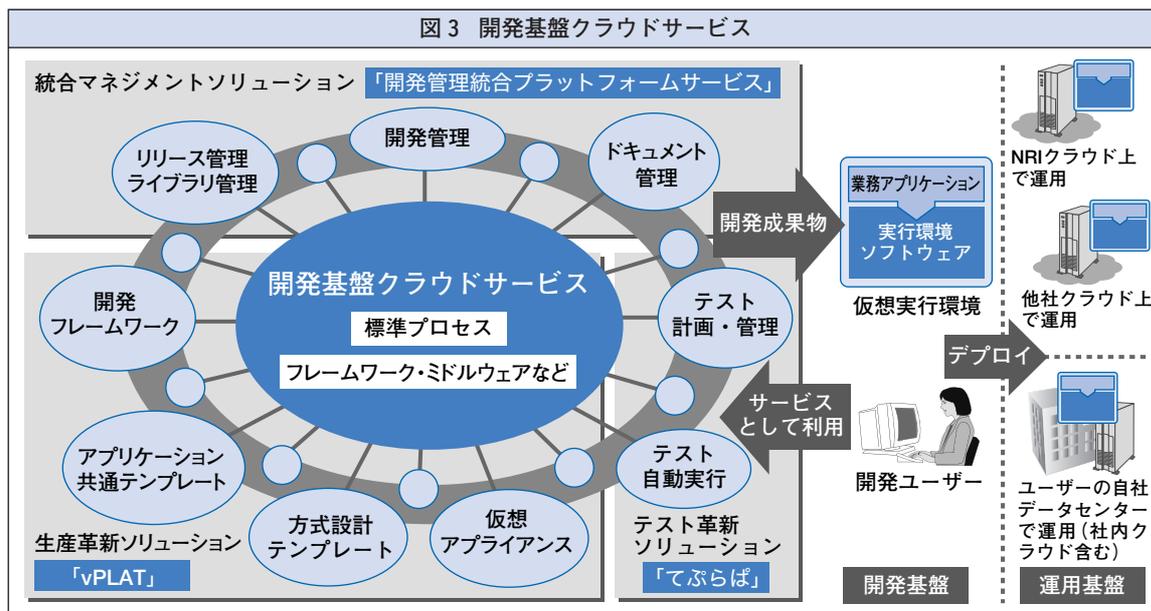
八木晃二
(やぎこうじ)



青山 慎
(あおやましん)



斉藤英紀
(さいとうひでき)



る予定である。

(2) 生産革新ソリューション

業務アプリケーションに共通する設計をパターン化し、それに基づいて構築したシステム基盤を仮想サーバーとして提供する。また、アプリケーション構造（クラス構造、ログ／トレース、エラー／例外処理）も標準パターン化し、テンプレート（ひな型）として提供することにより差分開発を可能にする。これによって、実績に裏付けられた品質の高いシステム基盤を使って統制の取れたアプリケーション開発を行うことが可能になる。第一段として、Java EE (Java Enterprise Edition：企業システム向けのJava開発・実行環境) によるWebアプリケーションサーバーを迅速に構築する「vPLAT」を2010年2月から提供している。

(3) テスト革新ソリューション

テスト計画・テスト実施・結果集計分析・改善のサイクルを効率的に回していくための環境を提供する。従来、テスト工程は付加価値が高くないにもかかわらず人手に頼らざるを得ないケースが多かったが、これを自動化することでテストの効率と品質を高めると同時に、ひいてはライフサイクル全体にわたるコスト削減も図れるようになる。第一段として、テストの自動実行・管理を効率化する「てぶらば」を2009年8月から提供している。

「DI基盤クラウドサービス」と「開発基盤クラウドサービス」のSaaSならではの導入の容易さは、業務システムの迅速な構築を考えている企業にとって大きな魅力になると考えられる。 ■